

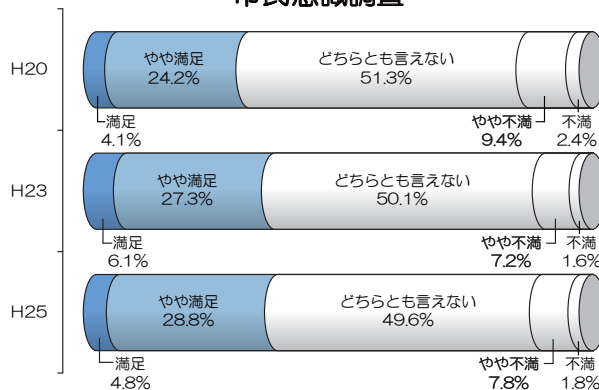
基本政策 6

政策 1 学校教育の充実

市民意識調査の分析

◆ H20～H25で「満足+やや満足」が5.3ポイント増加しました。（H20～H23：+5.1ポイント、H23～H25：+0.2ポイント）教育相談センター、総合学習センターを開館し、不登校者などに対する教育支援や教員の指導力強化に努めたこと、また、特色ある学校づくりを進めたことが満足度増加要因の1つと考えられます。

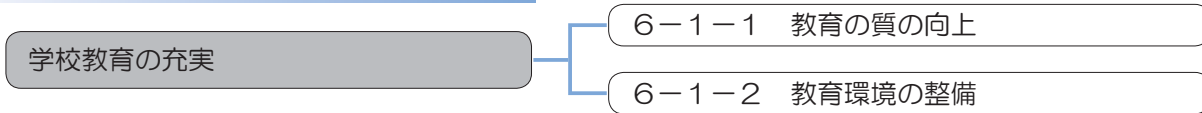
市民意識調査



前期の総括と後期の方向性

施策	前期の総括	後期の方向性
教育の質の向上	教育相談センターや総合学習センターを開館し、教育相談や教育研究に取り組んできました。	次代を担う子どもたちの生きる力を育む教育を推進するとともに、さらなる教師の資質向上のため、教員研修機能の整備や将来の教員研修ビジョンを検討します。
教育環境の整備	小中学校の耐震化、屋内運動場天井改修、中学校新設、東部学校給食センター建設などの環境整備に取り組みました。南部、西部学校給食センターの老朽化が課題となっています。	教育環境の向上をめざし、事業を実施する期間と位置付けます。また、学校給食センター移転設計画については、関係機関との十分な調整をもって進めます。

施策の体系



施策

6-1-1 教育の質の向上（主担当：学校指導課）

[個別計画] 21世紀教育ビジョン推進計画

- ◎ ESD^{*1}の視点に照らして、これまでの教育を見直し、「環境教育」「英語教育」「岡崎の心の醸成」を三本柱に据え、心豊かで力強く生きぬく力を育み、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を促す教育活動を進めます。
- ◎ 地域の人材を教員補助者・学生支援員として活用します。
- ◎ 地域の科学的教育資産を生かしたスーパーサイエンススクール推進事業や特色ある学校づくりを継続的に推進します。
- ◎ タブレット端末^{*2}等のICT^{*3}の積極的な活用を通して、個の能力に合わせて効果的に思考力・判断力・表現力を高める教育活動を進めます。
- ◎ 教員研修の充実、教育研究の充実、教育情報の収集の充実に努め、指導力・授業力など確かな教師力を身に付けた教師を育成します。
- ◎ 「教育相談センター」の機能の充実を図り、教育支援・不登校の悩みなどにきめ細かい助言・指導を行い、すべての児童生徒が楽しく学校へ通うことができるようにします。
- ◎ 次代を担う子どもたちの教育の充実に図るため、教育拠点の整備を検討します。

6-1-2 教育環境の整備（主担当：総務課・施設課）

- ◎ 安全・安心な学校給食を提供するため、老朽化した西部及び南部学校給食センターの移転建設を計画します。
- ◎ 学校施設は未来を担う子どもたちが生活する場であり、非常災害時には地域住民を受け入れ、避難生活の拠り所として重要な役割を果たすため、安全で安心な教育環境が確保できるよう校舎や屋内運動場などの非構造部材^{*4}の耐震化を計画的に進めます。

参考指標

施策名	指標名	現状値	目標（平成32年度）
(1) 教育の質の向上	学校を楽しんでいる児童生徒の割合	89% (平成24年)	90%
(2) 教育環境の整備	老朽化した学校給食センターの更新	1施設 (平成26年度)	3施設

*1 ESD：Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）
 *2 タブレット端末：液晶ディスプレイ等の表示部分にタッチパネルを搭載して、指で操作する携帯情報端末の総称
 *3 ICT：情報通信技術
 *4 非構造部材：建物の構造体ではなく、天井材、照明器具、窓ガラスなどをいう

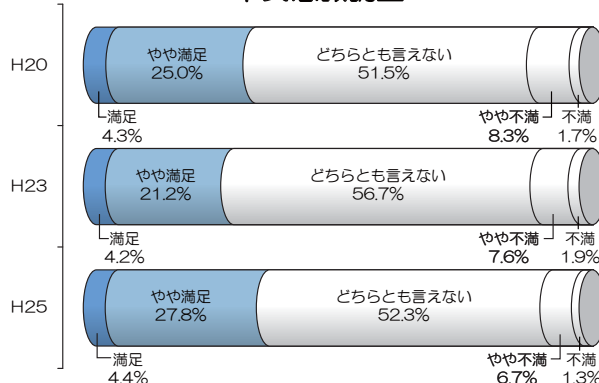
基本政策 6

政策 2 生涯学習・スポーツの推進

市民意識調査の分析

- ◆ H20～H23で「満足+やや満足」が3.9ポイント減少し、「不満+やや不満」も減少しました。図書館交流プラザが整備されましたが、各種事業の展開期にあり満足度を評価するまでには至っていないことが要因の1つと考えられます。
- ◆ H23～H25で「満足+やや満足」で6.8ポイント増加しました。生涯学習拠点として定着し、魅力のある講座が増えたことなどが満足度増加要因の1つと考えられます。

市民意識調査



前期の総括と後期の方向性

施策	前期の総括	後期の方向性
生涯学習の推進	図書館交流プラザを生涯学習の拠点とし各地域の市民センターと連携し取り組んできました。	図書館交流プラザ、各地域の市民センターと連携して事業を実施する期間と位置付けます。
生涯スポーツの推進	スポーツ振興計画を策定（H22～H31）し、事業を進めたことが市民満足度の向上につながりました。	関係機関との十分な調整をもって、計画を策定し、これに基づく事業を実施する期間と位置付けます。

施策の体系

生涯学習・スポーツの推進

6-2-1 生涯学習の推進

6-2-2 生涯スポーツの推進

施策

6-2-1 生涯学習の推進（主担当：文化活動推進課）

[個別計画] 生涯学習推進計画

- ◎生涯学習推進計画に基づき、市民が協働できる組織を確立し、生涯学習への参加機会を確保することで、地域の課題解決、地域づくりへの展開へ向けて公益活動への貢献にもつながる生涯学習を推進します。
- ◎自然科学研究機構の立地、モノづくりの研究開発拠点といった地域特性を活かして、創造性豊かな子どもの育成をめざします。
- ◎生涯学習の基盤として市民の知的活動と創造的文化活動を支援するとともに、子どもの読書活動の推進に取り組みます。

6-2-2 生涯スポーツの推進（主担当：市民スポーツ課）

[個別計画] スポーツ推進計画

- ◎スポーツ推進計画に基づき、市のスポーツ・体育事業の推進を図り、市民の体力向上と増進に努め、健康で明るい市民生活の発展に寄与し、「スポーツでつなぎ 育む いきいきげんき 岡崎」の実現を進めます。
- ◎中央総合公園野球場・体育館などの大規模スポーツ施設の広域利用、小中学校体育館・運動場の地域開放など、広域または身近なスポーツ施設の整備を進めます。

参考指標

施策名	指標名	現状値	目標（平成 32 年度）
(1) 生涯学習の推進	定期講座・自主講座受講者数	7,766 人 (平成 25 年度)	8,500 人
(2) 生涯スポーツの推進	各種スポーツ大会参加者数	34,160 人 (平成 25 年度)	35,800 人

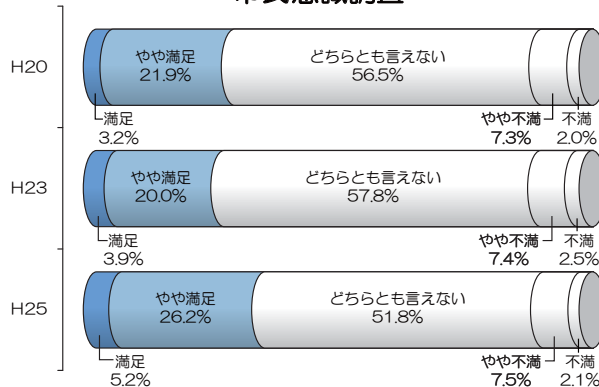
基本政策 6

政策 3 文化の振興

市民意識調査の分析

◆ H20～H25で「満足+やや満足」で6.3ポイント増加しました。旧本多邸の復原、あいちトリエンナーレの開催、オカザえもんのアート広報大臣任命、悠紀の里整備と市民に身近な事業に取り組んだことが満足度増加要因の1つと考えられます。

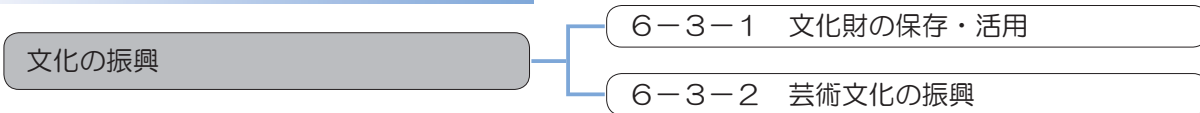
市民意識調査



前期の総括と後期の方向性

施策	前期の総括	後期の方向性
文化財の保存・活用	旧本多邸を復原し、旧本宿村役場復原活用に向けたワークショップ*1を開催しました。文化財に関する情報発信も積極的に進めました。	観光資源ともなる文化財の活用をさらに進めていくため、関係機関と十分な調整をもって、歴史文化基本構想を策定し、歴史まちづくり法に関する事業と連携して、積極的に進める期間と位置付けます。
芸術文化の振興	芸術文化創造拠点として旧セルビ跡地を購入しました。また、あいちトリエンナーレを開催し、オカザえもんをアート広報大臣に任命しました。市民会館は長寿命化の方針に沿って改修のための検討に入りました。	関係機関と十分な調整をもって、文化振興推進計画を改定し、芸術文化の振興につながる事業の開催や文化施設の整備を進めるとともに、「ジャズの街岡崎」の発信を積極的に進める期間と位置付けます。

施策の体系



*1 ワークショップ：講義などのように一方的な知識・情報伝達ではなく、参加者が積極的に参加・体験し、参加者同士の相互作用のなかで、何かを創造したり、合意形成を図る手法

施策

6-3-1 文化財の保存・活用（主担当：社会教育課）

[個別計画] 歴史文化基本構想

- ◎市内に残されている文化財の指定・登録を進め、その保護と伝承に努めます。
- ◎指定や登録された貴重な文化財を中心に、その周辺環境も含めて、総合的かつ体系的に保存、活用を図っていくための基本的指針として歴史文化基本構想の策定とその推進を図ります。
- ◎貴重な文化財の調査研究を進め、その成果を展示・出版することにより、歴史資産の豊かさを市内外に情報発信します。

6-3-2 芸術文化の振興（主担当：文化総務課）

[個別計画] 文化振興推進計画

- ◎文化振興推進計画を推進し、芸術文化に親しむ機会の拡充を図ることで、芸術文化事業の参加者数を増やします。また、芸術文化を継承し、創造し、発信する担い手となる人材の育成・支援を進めます。
- ◎世界有数の「内田修ジャズコレクション」を核とし、「ジャズの街岡崎」を市民と共に、全国に発信します。
- ◎「美術博物館」を拠点にした「世界子ども美術博物館」、「美術館」との美術、歴史を中心とした施設間ネットワークの強化を図るとともに、文化を視点とするまちづくり、観光・経済の振興にも寄与します。
- ◎芸術を視点としたまちづくりやまちの活性化を進めるため「あいちトリエンナーレ 2016」の開催を誘致します。

参考指標

施策名	指標名	現状値	目標（平成 32 年度）
(1) 文化財の保存・活用	文化財教室への参加数	178 人 (平成 25 年)	260 人
(2) 芸術文化の振興	芸術文化事業の参加者数	33,103 人 (平成 25 年度)	55,000 人